

令和2年度第1回研究評価（内部評価）の結果

国立研究開発法人建築研究所は、次の日程により、下表に示す令和2年度に実施予定の研究課題について研究評価（内部評価）を実施した。内部評価にあたっては、国立研究開発法人建築研究所研究評価実施要領（平成27年4月1日理事長決定）に基づき、事前評価を実施した。事前評価の研究課題については実施することが適当と評価を行った。

1. 内部評価の開催日
令和2年5月21日

2. 評価項目

2-1. 事前評価

- 1) 研究開発の目的、必要性
- 2) 建築研究所が実施する必要性
- 3) 達成すべき目標、評価の指針
- 4) 目標達成の可能性
- 5) 研究体制
- 6) その他、研究課題の内容に応じて必要となる事項

3. 評価区分

3-1. 事前評価

- a: 新規研究開発プログラムとして、提案の内容に沿って実施すべきである。
- b: 新規研究開発プログラムとして、内容を一部修正のうえ実施すべきである。
- c: 新規研究開発プログラムとして、大幅な見直しを要する。

4. 対象課題

4-1. 事前評価

番号	研究グループ等	プログラム	種別	課題名	実施期間	研究課題の概要	評価
1	構造	安全・安心	一般	鋼構造建築物の大地震時の床加速度評価に関する研究	R2～R3	本研究課題は、通常より高い性能を有する鋼構造建築物(大地震時の限界変形角が1/100程度以下)を主対象とし、現実的な建築物を想定した地震応答解析により、非構造部材及び建築設備に作用する構造体の床加速度の実態を把握するとともに、現状、慣行として使用されている1G程度の数値の妥当性を検証した上で、実態により即した当該建築物の大地震時の床加速度の評価法を提示することを目的とする。	a
2	環境	持続可能	一般	新型ウイルス感染症流行による民生エネルギー消費への影響調査	R2～R3	本研究では、在宅勤務の普及拡大や店舗営業の自粛などによる、民生部門のエネルギー消費やCO2排出量への影響について、ミクロとマクロそれぞれの変化量を定量的に調査する。また、将来の働き方改革普及による住宅と非住宅それぞれの時刻別エネルギー需要量への影響を明らかにする。さらに、災害時に最低限の都市活動を維持するために必要な時刻別エネルギー量を把握することで、近年多発している自然災害に対する、都市のレジリエンス性能の向上を支援する。	a
3	防火	安全・安心	一般	工事中の溶接・溶断火花が発泡プラスチック系断熱材に飛散して発生する火災の対策に関する研究	R2～R3	本研究開発課題は、工事中の溶接・溶断火花が飛散して、発泡プラスチック系断熱材に着火して火災に至り、更に死傷者が発生する事例もあることを踏まえ、工事現場において溶接・溶断作業を行う際に必要な「不燃材料の囲い」や「防火上必要な措置」等に係る具体的な対策を検討し、提案することを目的とする。	a
4	生産	持続可能	一般	公共建築工事の事業計画策定および発注関係事務における発注者とPMrの役割に関する研究	R2～R3	本研究課題は、多様化した事業・発注形態においてPMrの活用を普及促進に向けて、新庁舎整備事業および工事の事業・発注形態を類型化した上でヒアリング調査を行い、類型化した各事業・発注形態における標準的な業務プロセスを作成し、それらのプロセス中で発注者やPMrが果たしている役割・責任分担を役割分担マトリクスと部門関係フローチャートの形で整理することで、各事業・発注形態における最適な発注者とPMrの役割・責任分担のありようを明確に示す技術資料を提示することを目的とする。	a